

外房

小型漁船漁業【まき刺網漁業等】(雇用型・独立型)

漁業の概要

外房では様々な小型漁船漁業が営まれており、いすみ市の地先には器械根と呼ばれる岩礁帯が広がっています。季節変化に応じて多種多様な魚種が来遊するので、この地区の漁業者は、魚群を刺網で巻いて漁獲するまき刺網漁業などを中心に所得に繋がる魚種を臨機応変に漁獲しています。

例えばイセエビの刺網を操業していた日にブリ類の来遊情報を入手すれば、すぐに網を積み替えて次の日にはまき刺網を操業することがあります。さらに、相場によっては、まき刺網を操業した後に、たこつぼを揚げに行く日もあります。

まき刺網は網から漁獲物を外したり、切れた網を繕ったりと人手が必要で、時には15人以上の作業員が必要になることから、皆で和気あいあいと作業できる雰囲気があります。

いすみ市では「いすみ産マダイ」、「外房イセエビ」、「太東・大原産真蛸」、「いすみ産大さざえ」と多くの産品が千葉ブランド水産物に認定されています。



まき刺網漁業の水揚げ

漁業収入モデル(独立時)

水揚げ収入	3,700万円
経費	2,400万円
漁業所得	1,300万円

まき刺網漁業(3人乗り)の場合

※上記は漁業者からの聞き取りを基にした一例であり、年、資源状況、習熟度等によって大きく変動します。

対象魚種	①まき刺網:ブリ類、サワラ、マダイ ②はえ縄:トラフグ、④たこつぼ:マダコ ③刺網:イセエビ、サザエ ⑤曳縄:サワラ
漁船の規模	5～10トン前後の船内機船
乗組員数	2～4人
年間労働日数	海上200日、陸上30日、第1、3日曜休漁、6月、11月連休有り。
技術習得期間	3～5年程度

各漁業の年間操業計画

漁業種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
まき刺網	←ブリ類、サワラ、マダイ→					※サワラは3月まで						
はえ縄	←トラフグ→					←マダイ→					←	
刺網				←				←				
たこつぼ・曳縄	←マダコ・サワラ→					←イセエビ、サザエ→						←

1日の操業スケジュール例

▼まき刺網漁業(1月～5月)

4:00～4:30	出港・漁場へ移動
4:30～5:00	操業(魚群の探索)
5:00～6:00	操業(投網、追立、揚網)
6:00～6:30	帰港
6:30～10:00	網からの魚外し
10:00～12:00	水揚げ作業、メンテナンス、翌日準備

就業と漁労作業

本地区の小型漁船漁業では、既存漁業者の乗組員として就業し、地元の漁業者との信頼関係を築きながら、漁業技術を習得していきます。

まき刺網漁業の漁労作業としては、左記スケジュールの各作業を船長、他乗組員と共に協力しながら行います。